

令和6年度 デジタル田園都市国家構想交付金事業

1. 市単独事業（地方創生推進タイプ）①

事業名	多様なツーリズム推進事業【R 4～R 6年度】						
事業内容	《事業の全体像》 これまでの本市の観光施策は世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道（熊野古道）」を観光資源に、欧米豪をはじめとする外国人観光客を主なターゲットとしてプロモーションを展開、海外からは高い評価を獲得し、外国人観光客も年々増加していたが、一方で熊野古道を歩く国内観光客は少ない状況であった。また、コロナ禍により観光動向が変化しており、国内外において自然体験やアウトドア等への関心が高まっている。 また、市内には世界遺産熊野古道のほか、ひき岩群、護摩壇山、百間山など国立・国定公園や県立自然公園となっている自然豊かな登山スポットが点在しているものの、これらの観光資源を自然体験やアウトドア等の分野では活用できていなかったことから、登山やアウトドアに関心のある層をターゲットに活用を図る。 「低山トラベル」という楽しみ方をテーマにすることで、差別化を図り、低山トラベルという旅のスタイルの普及を本市が先駆的に取り組むことで、本市のブランディングにつなげる。このような新たな需要を創造するとともに、多様なツーリズムの推進による新たな客層及び持続的な誘客へとつなげ、他の施策等とも連携させることで、市内観光の回復と地域経済の活性化を目指す。 《R 6年度事業内容》 ●統一コンセプトの決定及びプロモーションツールの作成 1・2年目の成果を基に、市内に点在する地域資源の統一コンセプトを決定し、今後の柱とすることで、開発したコンテンツのイメージ定着を図る。また、決定した統一コンセプトに基づき、登山地を中心とした地域資源を一体的にPRするプロモーションツール（WEB、冊子等）を作成し、継続的な情報発信に取り組む。 ●インセンティブ造成 市内登山スポットを巡るインセンティブを造成することで、そこへ行ってみたいという動機付けを行うとともに、域内での周遊や再訪を促進する。 《参考（実績額）》 事業費 2,970,000円（うち交付金充当額 1,485,000円）	本事業における重要業績評価指標（KPI）					
		指標	区分	（基準値） R 3	R 4	R 5	R 6
		低山登山者数 <u>R 6年度に9,900人</u>	計画値	6,400人	7,000人	8,300人	9,900人
			実績値		7,967人	9,646人	16,020人
		ハイキング、キャンプ等の 目的別観光客数 <u>R 6年度に294,860人</u>	計画値	232,860人	244,360人	268,360人	294,860人
			実績値		320,209人	347,924人	379,385人
		本事業でコンテンツ化した 旅行商品の取り扱い件数 <u>R 6年度に80件</u>	計画値	0件	0件	20件	80件
			実績値		0件	4件	6件
		本事業を通じた関係人口 及び関係人口予備軍 <u>R 6年度に55人</u>	計画値	0人	15人	35人	55人
			実績値		10人	25人	10人

市単独事業（地方創生推進タイプ）②

事業名	観光を軸とした持続可能な地域づくり推進事業【R５～R７年度】						
事業内容	《事業の全体像》 本市の観光資源を形成する森林環境、山村景観及び文化的景観の保全と活用を両立し、持続可能な地域づくりにつなげるため、植林や育林事業に係る森林体験コンテンツを開発し、観光客による森林保全を推進するとともに、耕作放棄地を活用した空間づくりや体験コンテンツ化を行う。また、国内外で人気の高い梅酒をテーマとしたツーリズムを造成し、誘客及び外貨獲得を図る。 また、これらの取組と併せて、ショートムービーの制作配信により各事業のプロモーション力を高め、ダイヤモンドイヤーを活かした本市の認知度向上と誘客促進に積極的に取り組むことで、本事業の将来的な自立を目指す。 《R６年度事業内容》 ●サスティナブルツーリズム推進事業（事業費 5,000,000円） 市内企業等と連携し、植林や育林事業に係る観光コンテンツの開発及びオンライン上での予約販売を行うことで、観光客による森林保全の推進と観光消費による外貨獲得を両立し、雇用創出や林業振興、ひいては移住定住の促進にもつなげる。併せて、森の公益的機能や本市の山村景観の魅力を伝える人材を育成し、観光客への発信だけでなく、学校教育とも連携した取組を展開することで、子供たちのシビックプライドを育み、地域産業の将来を担う土壌をつくる。 ●梅酒ツーリズム推進事業（事業費 15,600,000円） 本市の主要産業である梅産業の中でも、国内外で人気の高く、観光の切り口ともなりうる梅酒をテーマとしたツーリズムを造成し、オンライン上での予約販売を行うことで、国内外からの誘客及び消費拡大を図り、梅産業の振興につなげる。１年目においてはコンテンツ開発などの地盤づくりを行い、２年目以降は拡大とブランディングに取り組む。 ●ダイヤモンドイヤーを活かした誘客促進事業（事業費 10,616,888円） 本市への誘客やプロモーションの好機となる大型事業と連携し、既存の観光施策を加速させながら、本事業において開発・造成する新たなコンテンツも広くプロモーションすることで、本市のブランディングにつなげる。 ●プロモーション動画制作配信事業（事業費 1,497,315円） 世界遺産を核とした観光施策や多様なツーリズムを加速させるとともに、新たに開発するコンテンツのプロモーションに寄与するため、近年ニーズが高まっているショートムービーをテーマごとに制作し、SNS等において効果的に配信することで、本市の認知度向上と誘客促進を図る。 《参考（実績額）》 事業費 32,714,203円（うち交付金充当額 14,517,536円）	本事業における重要業績評価指標(KPI)					
		指標	区分	(基準値) R４	R５	R６	R７
		観光客入込客数 <u>R７年度に4,684,685人</u>	計画値	2,584,685人	3,184,685人	4,384,685人	4,684,685人
			実績値		2,824,020人	3,208,026人	
		森林体験コンテンツの販売数（参加人数） <u>R７年度に50人</u>	計画値	0人	0人	20人	50人
			実績値		0人	351人	
		梅酒ツーリズム商品の販売数（参加人数） <u>R７年度に250人</u>	計画値	0人	0人	100人	250人
			実績値		0人	367人	
		耕作放棄地及び植栽放棄地の活用件数 <u>R７年度に13件</u>	計画値	0件	3件	8件	13件
			実績値		2件	7件	

2. 広域連携事業（地方創生推進タイプ）①

事業名	持続可能な地域を創生する世界農業遺産活用戦略推進事業【R4～R6年度】						
事業内容	《事業の全体像》 みなべ、田辺地域では、新たな地域の創生戦略として、梅の生産過程等を踏まえた梅そのものの価値を再認識する中で、梅を核とした「農業システム」を世界に誇れる資源として、国連食糧農業機関（FAO）に対し「世界農業遺産（GIAHS）」への申請を行い、2015年12月15日に認定されたところである。本地域としては、世界農業遺産の認定を契機として、梅産業全般のグローバル展開を図るとともに、梅産業はもちろん地域の魅力・価値を再発見、再構築し、その魅力・価値を充分に理解して発信できる人材を育成することで、梅（UME）産業のイノベーションを実現する。 《R6年度事業内容》 ●みなべ・田辺地域世界農業遺産推進協議会負担金 みなべ・田辺の梅システムの保全と活用を図るため、世界農業遺産保全計画（第2期）に基づく取組を行う。 1. グリーンツーリズム推進事業 グリーンツーリズム事業メニュー構築のため地域観光関係部局等と連携し、研修会を実施する。地域の環境保全に関する里山管理、生物多様性の勉強会を実施し、グリーンツーリズム体験メニューを構築する。 2. 住民参画地域保全活動支援事業 世界農業遺産「みなべ・田辺の梅システム」を理解し、発信できる人材「梅システムマイスター」を中心とした住民主導プロジェクトによる次世代育成活動を支援する。地域住民主体で実施する、梅システムの保全活用の取組に対して支援を行う。耕作放棄地にウバメガシ等のミツバチの蜜源樹植樹を行うことで、地域環境の保全を目指す。 3. 梅と健康のPR事業 国内の消費者向けに、梅の健康への有用性をPRすることで新たな需要を掘り起こし、消費拡大を目指す。また世界農業遺産国内認定地域と共同で物産展等を開催することで、世界農業遺産の認知度向上と消費拡大を図る。 地域内教育委員会と連携し、地域内小中学校等に対して梅の機能性についてPRを実施する。海外に向けたJETRO連携事業として、欧米豪諸国にターゲットを絞った梅・梅加工品の海外市場販路を開拓するため、梅＝健康をテーマに梅の有用性をPRし、新たな魅力を発信していく。 世界農業遺産認定地域の先進地として、認定を目指す海外の研修生を受入れ地域の若者との交流の場を作る。 《参考（実績額）》 事業費 2,236,916円（うち交付金充当額 1,118,458円）	本事業における重要業績評価指標(KPI)					
		指標	区分	(基準値) R3	R4	R5	R6
		地域の魅力ある資源を発掘し発信することで、国内外からの人の流れ（宿泊客数） R6年度に417,113人	計画値	327,113人	357,113人	387,113人	417,113人
			実績値		428,369人	504,409人	546,433人
		梅システムマイスターを中心とした、地域を主体とした取組を推進することで、年間の新規就農者の増加を目指す R6年度に36人	計画値	23人	27人	31人	36人
			実績値		20人	21人	19人
		ミツバチによる生物多様性評価、重要性の周知、環境の整備により、ニホンミツバチの飼養数の増加を目指す R6年度に252群	計画値	132群	162群	192群	252群
			実績値		102群	166群	72群
		梅干しの新たな魅力や地域の魅力を発信することで、梅干し離れに歯止めをかけ、年間一世帯当たりの梅干し購入量の増加を目指す R6年度に693g	計画値	633g	643g	663g	693g
			実績値		650g	626g	658g

※本事業の評価検証については、「みなべ・田辺地域世界農業遺産推進協議会」において実施する。

3. 市単独事業（拠点整備タイプ）

事業名	スポーツ合宿を核とした交流人口創出事業【R5～R9年度】								
事業内容	《事業の全体像》 スポーツ合宿の誘致における他地域との優位性を高め、新たな利用団体の受入れなど更なるスポーツ合宿の誘致を促進し、スポーツ振興と交流人口の増加、地域経済の活性化を図るため、約30.8ヘクタールの公園内に各種スポーツ施設を有する田辺スポーツパークにおいて、ナショナルチームや各競技のトップクラスのアスリートが十分に満足できる充実したトレーニング機器等を備えたトレーニング施設を整備する。 施設については、スポーツ合宿利用者のトレーニングだけでなく、体力向上や健康維持のため一般市民にも開放する。 また、当地域の温暖な気候や高速道路の南紀田辺インターチェンジからすぐの場所に位置する交通の利便性を生かすとともに、スポーツ・ツーリズム・コーディネーターや南紀エリアスポーツ合宿誘致推進協議会とも連携し、陸上競技場での陸上、サッカー、体育館でのバレーボールやバスケットボール、野球場での野球などの競技を中心としたスポーツ合宿を積極的に誘致することで、誘致件数及び利用者数の増加につなげる。 【施設名称】 田辺スポーツパークトレーニングジム 【整備内容】 新たな利用団体の受入れなど更なるスポーツ合宿の誘致を図り、スポーツ振興と交流人口の増加、地域活性化を推進するため、ナショナルチームや各競技のトップクラスのチームでも対応できるトレーニング施設を整備する。 木造平家建て 延床面積300㎡ 《参考（実績額）》 事業費 136,059,000円（うち交付金充当額 68,029,500円）	本事業における重要業績評価指標(KPI)							
		指標	区分	(基準値) R4	R5	R6	R7	R8	R9
		スポーツ合宿誘致件数 R9年度に638件	計画値	588件	598件	608件	618件	628件	638件
			実績値		584件	571件			
		スポーツ合宿利用人数 R9年度に26,950人	計画値	24,450人	24,950人	25,450人	25,950人	26,450人	26,950人
			実績値		35,219人	34,386人			
		トレーニング施設利用者数 R9年度に2,300人	計画値	0人	300人	2,000人	2,100人	2,200人	2,300人
			実績値		630人	3,059人			